

〔実践編〕

自尊感情、規範意識の醸成に向けて、道徳科や特別活動等の各学校の実践例を掲載しています。

よりよい話の聴き方を考え、他者を思いやる気持ちを醸成する

◎関連する内容項目：「礼儀」

◆ 取組のポイント

- ①真心をもって接する態度の育成
- ②共感的な人間関係づくり

ワークシートを活用し、児童が個人思考する時間を確保します。

学級活動「よりよい話の聴き方」ワークシート

年 組（ ）

友達の話を聴くときにより聴き方だと思うことは何ですか。

よい聴き方をされて感じたことは何ですか。

振り返り

◆ 取組の概要

- ねらい：他者との関わりの中で、話し手が心地よくなる話の聴き方を考えることができる。
- 題材名：「話し手が心地よくなる聴き方を探ろう」

ウォーミングアップでは、簡単なゲームを行い、児童が発言しやすい雰囲気をつくれます。

【本時の展開】

	学習活動（・予想される児童の活動）	備考
導入	1 ウォーミングアップ 2 本時の活動について見通しをもつとともに、3つの話の聴き方のロールプレイを見る。 ①無関心な聴き方 ②否定的な聴き方 ③うなずくなどの聴き方	※ペアで人間関係づくりにかかわるアイスブレイクを行わせる。 ※T1、T2で話の聴き方についてのモデリングを行う。 (自分の趣味や好きな教科など)
	4 話し手と聴き手の役割を交代しながら3つの話の聴き方を体験し、どのように思ったかを交流する。 5 話の聴き方で大切だと思うことと、その理由を交流する。 ・うなずく、体を相手に向ける、相手の目を見る、否定しない、問い返す。 6 上手な聴き方を意識して、4～5名のグループで示されたテーマに沿って会話を行う。 7 話し手として感じたことを交流する。 ・安心して話がしやすい、楽しく話ができる。	※役割を交代しながら、3つの聴き方で話を聴くよう促す。 疑似体験させることによって、上手な話の聴き方について考えさせることが大切です。 ※発表内容を板書する。
終末	8 振り返りを行う。 (分かったこと、考えたこと、授業後に変わったことなど)	※数名に振り返りを発表させる。

振り返りでは、感想や思ったことを発表しながら、本時の内容が、今後どのような場面で生かすことができるかなどについて学級全体で共有します。

「相互評価」で自尊感情を育む

◎関連する内容項目：「個性の伸長」「自主・自律」「相互理解」

◆ 取組のポイント

- ①個人目標や役割の自己決定の機会の促進 ②相互評価や振り返る活動の充実
③学校行事と日常の学校生活の関連付け

◆ 取組の概要

【学校行事に係る事前・事後指導の流れ】

過 程	教科等	活動内容	自尊感情を高める指導
事前指導	・学級活動	・学校行事の目標や取組内容の決定 ・係等の役割の決定 ・ <u>個人目標の設定</u>	・全生徒の合意形成の下で、目標や取組内容を決定するよう確認する。 ・生徒一人一人に達成可能な役割を与える。 ・学級全体の目標や自己の役割に基づき、生徒に個人目標を設定させる。
	・文化祭 ・体育祭 ・修学旅行	・取組内容の準備、練習等 ・ <u>取組に対する自己評価・相互評価</u> （中間交流）	・自主的・自発的に活動する場面を設定する。 ・取組に対する自己評価及び生徒同士の取組を相互評価させる。 ※自己評価による自己の取組を振り返る活動、相互評価による互いの取組を認め合う活動の位置付け
		・相互評価を踏まえた取組の改善 ・取組内容の軌道修正等	・相互評価を踏まえた改善ポイントの自己決定の場を設定する。 ・改善に向けて努力した点を認め励ます声かけや、自分の役割に責任をもたせる声かけを行う。
文化祭、体育祭、修学旅行		個人目標の達成に向けて努力する姿や、自己の役割に責任をもって取り組もうとする姿など、生徒のよさを認め励ます。	
事後指導	・学級活動	・ <u>取組の振り返り</u> ・日常の学校生活への反映 ・次の学校行事に対する見通し	・頑張りや成長を実感できるよう、自己の取組を振り返らせる。 ・当該学校行事の成果を認め、日常の学校生活や次の学校行事に対する意欲を高める声かけを行う。 ※自己評価による自己の取組を振り返る活動、相互評価による互いの取組を認め合う活動の位置付け

「いいところ探し」で自尊感情を高める

◎関連する内容項目：「個性の伸長」

◆ 取組のポイント

- ①心をつなぐ学級経営の取組の工夫 ②よさを「見える化」した取組の工夫

◆ 取組の概要

- ねらい：友達のよさを発見し、互いによさを伝え合う活動を通して、自分の長所に気付き、それを一層伸ばそうとする心情を育てる

一人一人のよさに目を向ける工夫

<活動例①低学年>

- 帰りの会で、日直を担当した友達のよさを見付け、伝える場を設ける。



<活動例②高学年>

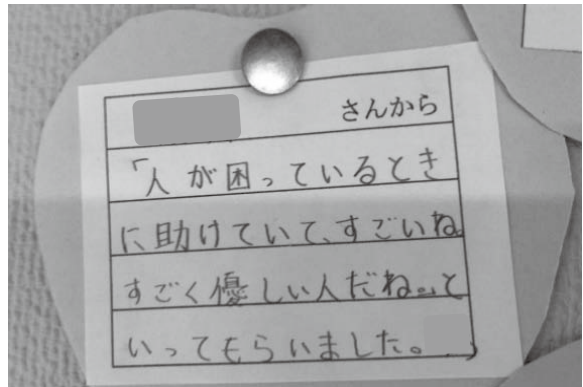
- 帰りの会で、ペアになった友達のよさを見付け、伝え合う場を設ける。
※ペアは、曜日によってローテーションする



様々なよさに気付かせる工夫

- 発見したよさをカードに記入し、「思いやりの木」として掲示する。カードの色やコーナーなどを工夫し、自分や友達の様々なよさに気付かせる。

- ・赤～ありがとう ・黄色～すごいね
- ・緑～頑張った ・ピンク～その他



自他のよさを話し合う活動で自尊感情を育む

◎関連する内容項目：「個性の伸長」

◆ 取組のポイント

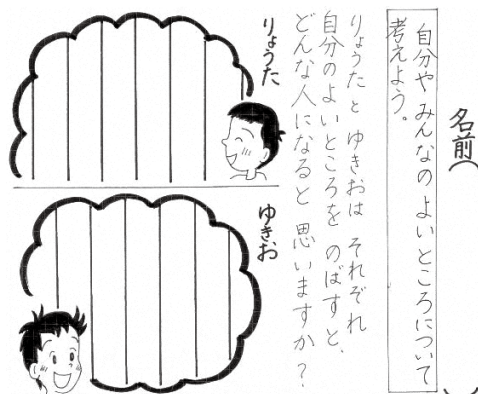
- ①互いによい面を伝え合う場の設定 ②自己のよさを振り返る場面の設定
③友達と関わりながら学ぶ学習形態の工夫

◆ 取組の概要

- ねらい：自分のよいところに気付き、伸ばしていこうとする意欲を育てる。
○教材名：「ありがとう、りょうたさん」（東京書籍「新しいどうとく2」小学校2年）

【本時の展開】

	学習活動	・備考 ◆評価
導入	1 自分の性格を振り返る。 自分やみんなのよいところについて考えよう。	・自分の性格に目を向け、長所や短所を意識させ、本時の学習テーマへとつなげる。
展開	2 教材を読む。 3 自分のよいところを伸ばすと、どんな人になると思うかみんなで話し合い、考える。（ワークシート） りょうたとゆきおは、それぞれ自分のよいところを伸ばすと、どんな人になると思いますか。 4 友達のよいところを振り返り、伝え合う（ペア） 5 自分のよいところを発表する。	・登場人物の性格と自分の性格とを重ね合わせながら聞くよう、聞く視点を伝える。 ・登場人物の長所と短所を色分けして示し、誰にでも両方の要素があることに気付かせる。 ◆よいところをさらに伸ばそうとすることで、自分自身の成長につながるかと捉えている。
終末	6 教師の説話を聞く。	・余韻を残しながら、意欲へとつなげる。



「○○さんへの手紙」で自尊感情を育む

◎関連する内容項目：「個性の伸長」

◆ 取組のポイント

- ①新たな「自分のよさ」に気付かせる工夫
- ②互いを認め合い、高め合える学級の支持的風土の醸成
- ③日常的に認め、励ます評価の工夫

「○○さんへの手紙」

★○○さんの長所（いいところを）を書きましょう。

・

・

・

★○○さんへ一言メッセージを書きましょう。

◆ 取組の概要

- 主題名：自分らしさをのばして
- ねらい：自分のよさや特徴に気づき、自分の長所を伸ばしていこうとする態度を育てる。
- 教材名：「ぼくらしさってなんだろう」（教育出版「はばたこう明日へ」小学校3年）

【本時の展開】

	学習活動	備考
導入	1 「自分のよさ」について考える。	・得意なことや好きなことを考えさせる。
展開	2 教材を読む。 3 「自分らしさ」に気付いた主人公のうれしい気持ちから、「自分らしさ」を伸ばしていくことのよさや大切さについて考えを深める。 4 「○○さんへの手紙」を基に、新たな「自分のよさ」に気付く。 5 「自分のよさ」について、考えが変わったことやこれからの自分の生き方について考える。	・個人で考えた後、教師の意図的な発問により、価値理解・他者理解を深めさせる。 ・事前に友達の長所を記入した「○○さんへの手紙」を配付する。
終末	6 教師の説話により、自分のよさを一層伸ばしていこうとする気持ちを高める。	

「じぶんさがしカード」で自尊感情を育む

◎関連する内容項目：「個性の伸長」

◆ 取組のポイント

- ①教材を自分との関わりで考えることができる活動の位置付け
- ②自分を多面的・多角的に捉える活動の位置付け
- ③今後の自分の生き方について考えを深める活動の位置付け

◆ 取組の概要

○ねらい：自分の特徴を知り、短所を受け止めつつ積極的に長所を伸ばしていこうとする実践意欲と態度を育む。

○教材名：「たからもの」（教育出版「はばたこう明日へ」小学校5年）

【本時の展開】

	学習活動	備考
導入	1 「ありがとうカード」をグループで配り合う。 2 自分の短所は見付けやすいが、「よさ」は自分自身では見付けにくいことに気付く。	・事前に「ありがとうカード」へ日頃の友達への感謝の気持ちを書かせる。
展開	3 教材を読む。 4 算数が苦手という自分の短所に気付き、問題をあきらめかけた“わたし”と、母と対話する中で、粘り強く、根気強いという自分の「よさ」に気付いた“わたし”とを対比させ、苦手な算数の問題に対しても前向きに取り組むことを選ぶ“わたし”の思いを考える。 5 「じぶんさがしカード」を交流し、グループで互いの「よさ」について伝え合う。	・事前に「じぶんさがしカード」へ自己評価及び自分の短所だと思ふことを書かせる。
終末	6 本時の学習を振り返り、本時で気付いた自分の特徴と、今後伸ばしていきたい自分の「よさ」について考えを深める。	

「じぶんさがしカード」の項目

- (1) 責任をもって行動している。
- (2) 明るい心で生活している。
- (3) 規則正しい生活をしている。
- (4) 目標を立てて、達成できるよう頑張っている。
- (5) 思いやりの心をもって人に接している。
- (6) 礼儀を大切に、言葉遣いに気を付けて話している。
- (7) 友達と励まし合って、がんばっている。
- (8) 自分の言いたいことをきちんと伝えたり、相手の言いたいことを最後まで聞いたりできる。
- (9) 法やきまりを守っている。
- (10) 自分の担当の仕事にきちんと取り組んでいる。
- (11) 家で、お手伝いや自分がすると決まっていることにきちんと取り組んでいる。
- (12) 学級や学校の一員として、みんなで協力し合っている。

じぶんさがしカード

	質問	自己評価
(1)	責任をもって行動している。	4-3-2-1
(2)	明るい心で生活している。	4-3-2-1
(3)	規則正しい生活をしている。	4-3-2-1
(4)	目標を立てて、達成できるよう頑張っている。	4-3-2-1
(5)	思いやりの心をもって人に接している。	4-3-2-1
(6)	礼儀を大切に、言葉遣いに気を付けて話している。	4-3-2-1
(7)	友達と励まし合って、がんばっている。	4-3-2-1
(8)	自分の言いたいことをきちんと伝えたり、相手の言いたいことを最後まで聞いたりできる。	4-3-2-1
(9)	法やきまりを守っている。	4-3-2-1
(10)	自分の担当の仕事にきちんと取り組んでいる。	4-3-2-1
(11)	家で、お手伝いや自分がすると決まっていることにきちんと取り組んでいる。	4-3-2-1
(12)	学級や学校の一員として、みんなで協力し合っている。	4-3-2-1

①ちょっと恥ずかしくて言いきけなくて、自分の短所だと思ふことを書きましょう。
②いつもお母さんに「帰ってきたらすぐにカバンの中からプリントを出して、机の上に置いて」と言われているのに、忘れてよく怒られます。

③「ありがとうカード」をはろう

友達からの 「ありがとうカード」	友達からの 「ありがとうカード」
友達からの 「ありがとうカード」	友達からの 「ありがとうカード」

④自分の「よさ」が分かったときの気持ちや、今後の自分の生き方について考えよう。

____年 ____月 ____日

名前 _____

4 当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまらない
1 当てはまらない

認め合い、自身を振り返って自尊感情を育む

◎関連する内容項目：「向上心、個性の伸長」

◆ 取組のポイント

- ①互いに認め合う関係づくりの取組の工夫
- ②自己の変容を実感できる学びの積み重ねの振り返りの工夫

◆ 取組の概要

- ねらい：自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を育てる。
- 教材名：「トマトとメロン」（日本文教出版「中学道徳 あすを生きる」中学校1年）

話し合いの心得

1. 積極的に意見を発表する。
2. 感情的な意見は慎む。
3. 自分の考えを押しつけない。
4. 他の人の意見をしっかりと聞く。
5. 反対のときは代案を発表する。
6. 意見が分かれたときは折り合い点を見つける。



互いの考えを認め合うために、「話し合いの心得」を確認し、共有する。

【本時の展開】

	学習活動	備考
導入	1 トマトとメロンのどちらをもらったらうれしいか、理由を併せて考えを出し合う。	・理由を考えやすいよう日常の場面を想起させる。
展開	2 トマトもメロンも、与えられた命を一生懸命に生きようとしていることから同じ立場であり、どちらの立場にも価値があることを教材文から読み取る。 3 メロンよりも低く見られるトマトが、自信を失ってしまったり、やけになったりしないためにはどうしたらよいか考える。 ※個人の考えが他者から得た多面的・多角的な考えを踏まえて、深まるように「個人思考→グループ交流→全体交流→個人思考」の流れで考える場面を設定する。 4 自分のよいところは、どのようなところかを考える。	・「話し合いの心得」を確認させる。
終末	5 自分のよいところを伸ばして生きるために、何が、なぜ大切なのか、本時の学習を振り返って考える。	・「自分への振り返り（ポートフォリオ）」に記入させる。

自分への振り返り ポートフォリオ

① 月 日 単元名() 組 氏名

授業内容	印象に残った	残らなかった
他者からの発見 気づき	あった	なかった
考えを深めたか	あった	なかった
これから大切に したいこと	あった	なかった
一言感想		

② 月 日 単元名()

授業内容	印象に残った	残らなかった
他者からの発見 気づき	あった	なかった
考えを深めたか	あった	なかった
これから大切に したいこと	あった	なかった
一言感想		

【生徒の実際の姿から】

- ・Oさんは、道徳科の授業を重ねるごとに「授業内容が印象に残った」「他者からの発見や気づき等があった」と振り返ることが多くなりました。
- ・Oさんは、その理由を「自身の考えをもてるようになり、自身の考えをもつと他の人の考えを聞きたくなってきた」と考えていました。

よりよい係活動を通して規範意識を育む

◎関連する内容項目：「よりよい学校生活、集団生活の充実」

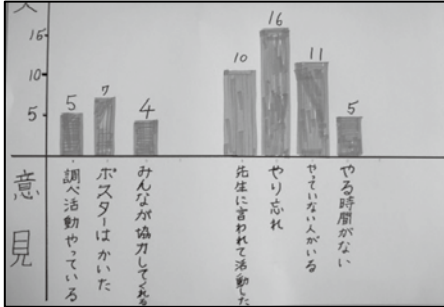
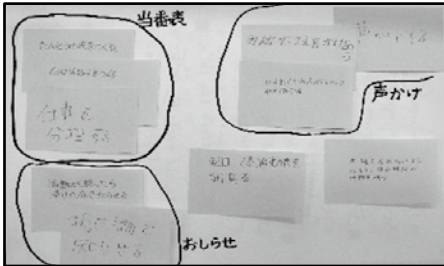
◆ 取組のポイント

- ①集団の一員であるという自覚と意識の向上
- ②自分たちで決めたことを守る活動を通じた規範意識の醸成
- ③集団思考を生かした個々の意思決定

◆ 取組の概要

- ねらい：係活動の問題点について考えることを通して、決めたことはしっかり守ろうとする規範意識を育み、よりよい学級をつくる。
- 題材名「さらにより学級を目指して！！係活動向上キャンペーン」

【本時の展開】

	学習活動	備考
導入	1 アンケートを基に、それぞれの係活動で頑張っていることや問題点について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・4月や5月に計画したことは行っている。 ・毎日の調べ活動は続けている。 ・忘れて活動が多い。 ・行っている人と行っていない人がいる。 等 課題：責任を果たすために係活動を見直そう	・アンケートの結果を基に、グラフを作成しておく。 
展開	3 問題点を踏まえて、係活動に責任をもって取り組むアイデアをグループで話し合う。 4 実際に取り組む活動について、全体で話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・責任をもって活動できるように担当表を作る。 ・活動を忘れないように、係カレンダーを作る。 ・今回話し合ったことを教室に掲示する。 ・活動を振り返る場を設定する。 等 	・思考ツールを活用する。 
終末	5 取り組むことが決まった活動を踏まえて、これから自分が守ることを考え、グループで伝え合う。	・キャンペーン実施後に、活動を振り返る場を設定する。

規範意識醸成の基盤となる自己有用感を高める取組

◎関連する内容項目：「よりよい学校生活、集団生活の充実」



◆ 取組のポイント

- ①意図的・計画的な異年齢集団による交流の設定
- ②他者評価の設定
- ③日常生活をより一層充実させるための話合いの場の設定

◆ 取組の概要

- ねらい：「異年齢集団による交流」を設定した取組をとおして、規範意識を醸成するための基盤をつくる。
- 題材名：「訪問ボランティア」

【生徒会活動に係る事前・事後活動の流れ】

過程	学習活動	備考
事前活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が異学年で構成される集団を編成する。 ・生徒会と各グループリーダー（3年生）との打合せを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前集会のグループ協議の時に、各グループリーダーが1年生から先に意見を出させ、3年生が意見をまとめることについて打合せで確認する。 ・上の学年が下の学年を尊重する態度を育成する。
事前集会	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢集団による交流を充実させるための3点について共通理解を図る。 ①異年齢集団による交流の意義や目的、各学年の目標について（全体に向けて生徒会役員から） ②異年齢の人の立場に立ち、どのように接することでよい関係を築くことができるかという点について ③異年齢と交流する際の留意点について ・各グループの代表者が発表する。 ・各グループで当日の役割分担について話し合うとともに、グループ発表や合唱などの交流のための練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢集団による交流の意義やよさ、各学年の役割について共通理解を図ることで、取組に対する意欲付けを図るとともに、見通しをもたせる。
生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会長のあいさつ ・利用者との交流 ・生徒からのプレゼントの贈呈 ・施設の方からのあいさつ  <p>【訪問ボランティアの様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の方からの価値付けや、3年生から1・2年生の取組に対して価値付ける場面を設定する。
事後活動	<ul style="list-style-type: none"> ・活動をとおして、学んだことや考えたこと、地域の一員として日常的に自分にできることについて考え、ワークシートに記入するとともに、グループ内で発表し、お互いのよかった点についてグループ内で評価を行う。 ・今回の活動の成果を踏まえ、「生徒会スローガン」を実現するために、学校生活の中で全員が気を付けるべきことについて話し合う。 	 <p>【事後集会の様子】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>平成31年度 生徒会スローガン</p> <p>・他者を尊重して協力し、 ・自分の考えに責任をもち 笑顔あふれる天中生 率先して行動できる天中生</p> </div> <p>【生徒会スローガン】</p>

「給食指導」や「清掃指導」における取組（中学校）〔稚内市立稚内南中学校・枝幸町立枝幸中学校〕

集団生活の充実を通して規範意識を醸成する

◎関連する内容項目：「よりよい学校生活、集団生活の充実」

◆ 取組のポイント

- ① 道徳科や学級活動等における学習と関連を図った指導の充実
- ② 生徒の責任感や主体性を育むことをねらいとした活動の工夫

◆ 取組の概要

【指導計画（例）】

月	道徳科	学級活動	学校行事・その他
4		「学級組織と自分の役割」 ・当番活動の進め方について	☆当番活動の開始
5	C(15) 集団生活の充実		◇体育大会 ※行事後の清掃活動
6			
7	C(10) 公德心	「1学期を振り返って」 ・学級内の活動の反省	◇学期末清掃週間
8			
9			◇学校祭 ※行事後の清掃活動
10		「学級組織と自分の役割」 ・後期の活動について	◇職場体験学習
11	C(12) 互いに支え合う社会 C(13) 勤労の尊さ		
12		「2学期を振り返って」 ・学級内の活動の反省	
1			◇新入生体験入学
2			◇ボランティア活動
3		「1年を振り返って」 ・学級内の活動の反省と進級に向けて	

学級活動では、年度当初に、当番活動等における望ましい活動の在り方を生徒が考える場を設定する。

学級活動では、学期ごとに当番活動等を振り返る場を設定するなどして、生徒がよりよい活動の在り方について考えるようにする。

道徳科では、学級活動の内容や日常生活における様々な体験と関連を図った指導を行い、道徳的価値についてより深く考えることができるよう計画的に指導する。

【当番活動】

掃除当番表 5 班

帰りの会終了後、直ちに自分の作業スタート！

A ~ 教室の床を隅々まで拭く。掃除の最後にゴミをすてに行く。

B ~ 机を元に戻す。イスを下ろす。机の整理。

C ~ 専用のバケツに水をくんでくる。机の上を水拭きする。

D ~ 黒板消しで雑談にやる。黒板消しクリーナー。教壇&教卓を水拭き。

※掃除の水曜日には、クリーナー清掃！

E ~ 専用のバケツに水をくんでくる。床の水拭きをする。

	月	火	水	木	金
1	A	D	C	B	E
2	A	A	D	C	A,B
3	B	B	A	A	B
4	B	B	A	A	D,C
5	C	B	B	A	E
6	D	C	B	B	A

当番活動等において、生徒に自分の役割と責任の自覚を促すため、分担表を教室に掲示し、一人一人の役割を明確にしている。



主体的に活動に取り組む態度を育むため、異学年グループによる清掃活動を行い、上級生が下級生に清掃指導したり、生徒同士でよりよい清掃方法について考えたりする機会を設定する。

きまりの大切さを考える活動を通して規範意識を育む

◎関連する内容項目：「規則の尊重」

◆ 取組のポイント

①自己決定を行う場の設定

②約束やきまりを振り返る場面の工夫

◆ 取組の概要

○ねらい：町の様子が描かれている絵を通して、きまりを守ろうとする態度を育てる。

○教材名：「どんなきまりがあるかな」（光村図書「きみが いちばん ひかるとき」小学校2年）

【本時の展開】

	学習活動	備考
導入	1 どんなきまりがあるかを確認する。 2 どうしてきまりを守らないといけないのかを問い、課題意識をもつ。	・生活のきまりや学級のルール等 ・「怒られるから」「あぶないから」「事故になるから」
展開	3 教科書の挿絵から「気になる行動」をしているところに印をつける。 4 印をつけたところについてペアで交流し、学級全体で、理由を発表し合う。 5 「気になる行動」を続けた後にどんなことが起きるかを考える。 6 どうしてきまりを守らないといけないかを考える。	・きまりを守っていない子どもの絵を提示する。 ・「楽しさ」と「きまりを守ること」のどちらが大切かを考えさせる。 ・身の回りの公共物や公共の場所の使い方や過ごし方について考えさせる。
終末	7 普段から気を付けていることや大切にしている約束やきまりを振り返る。	

みんなで使う物や場所を大切にすれば、みんなが気持ちよく安心して過ごすことができる。



教材や生活場面への自我関与により規範意識を育む

◎関連する内容項目：「規則の尊重」





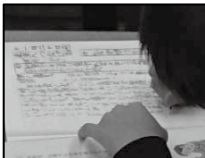
◆ 取組のポイント

- ①役割演技を通した多面的な価値の捉え方の工夫
②自分ごととして捉えさせる場面提示の工夫

◆ 取組の概要

- ねらい：約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、それらを守ろうとする態度を育てる。
○教材名：「黄色いかさ」（東京書籍「新しいどうとく3」小学校3年）

【本時の展開】

	学習活動	備考、【評価】
導入	<p>1 約束やきまりについて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが使う場所やものには、どのようなものがありますか。 普段、みんなが使う場所やものを大切にしていますか。 <p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>みんなで使うものや、きまりについて考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 挙手により一人一人に振り返らせ、大切にするための心構えや態度について考えることを意識付ける。 
展開	<p>3 教材の内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> かさを返さなかった大助は、どのようなことを考えましたか。 お母さんは、大助のことをどのように思いましたか。 黄色いかさが一本もないと聞き、大助はどのように思いましたか。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-right: 10px;">返すのが面倒だなあ。自分一人くらい返さなくても。</div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-right: 10px;">きまりを守らないと、みんなが困るでしょ。</div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-right: 10px;">おばあさんに迷惑をかけてしまった。返せばよかった。</div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">➡</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 迷惑なのは、おばあさんだけなのではないでしょうか。 みんなが大助の考えだったらどうなるのでしょうか。 </div> </div> <p>4 価値を自分ごととして捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが使うものを大切にできなかったことはありますか。 約束やきまりを守れなさそうな自分にどのような言葉を掛けますか。 <div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;">➡</div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 給食の片付けで汚したままにしてしまったなあ…。 つい廊下を走ってしまいそうになるなあ…。 </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 次に使う人の気持ちになって行動しようね。 自分では気付かないけど、他の人の迷惑になることもあるんだよ。 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 特定の児童に役割演技を行わせ、見ている児童に感想を聞くことで、多様な考えに触れるとともに自我関与を促す。 適宜、問い返しを行い、価値理解を深められるよう働きかける。  <ul style="list-style-type: none"> 実際の生活場面の写真を提示し、自分ごととして捉えられるように促す。
終末	<p>5 学習を振り返る。</p> <p>今日の授業で、一番心に響いたことを書きましょう。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-right: 10px;">今までは、みんなが使う物をあまり意識していなかったな。きまりについてはどうだったかな。</div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;">他の人の気持ちを考えて、公共のものやきまりを大切にしている。</div> </div> 	<p>【評価】</p> <p>相手や周りの人の立場を踏まえ、身近な約束やきまりについて自分ごととして捉えている。（ノート、記述）</p>

きまりと権利に対する道徳的判断力を高める

◎関連する内容項目：「規則の尊重」

◆ 取組のポイント

- ①道徳的価値に基づく課題意識の醸成 ②人間理解を深める場面の設定
③自己の生き方を見つめ直す場の設定

◆ 取組の概要

- ねらい：権利とは何か、互いの権利を尊重するために大切にすべきことは何かを考えることを通して、これまでの自己の考え方を見つめ直し、きまりと権利に対する判断力を高める。
○教材名：「図書館はだれのもの」（教育出版「はばたこう明日へ」小学校5年）

指導観	価値観	身近な集団生活を送る上において、互いの権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことが大切である。
	児童観	身近なきまりの意義や必要性は理解しているものの、自分たちの権利を主張することが強く、特に利害が及ぶ場面においてはきまりや相手の権利まで考えて行動できることが少ないことから、本時を通して、日常的にきまりを守ることや互いの権利を尊重することについて考えるきっかけとする。
	教材観	図書館のでできごとを通して、わたしたちと大学生の主張の違いから権利とは何か、互いの権利を尊重するために大切にすべきことは何かを考えることができることから、きまりと権利について自己の考えを深めるのにふさわしい教材である。

【本時の展開】

	学習活動	
導入	1 様々な例を提示し、自分の考え方を明確にする。	児童の本時の内容項目に対する考え方を明らかにする。 【例】 ・信号を守る ・順番は守る ・廊下は走らない ・遊びのルールを守る ・ゲームの時間を守る 等
	2 身近にあるきまりを守る意義について確認する。	
展開	3 資料を通してきまりや権利について考える。 ○ わたしたちと大学生、主張が違うのはどのような考えからでしょうか。 ○ みちおさんが「あんな言い方しなくてもいいのにね」と言ったのはどのような思いからでしょうか。 ◎ わたしがすっきりしていない気持ちになったのはなぜでしょうか。	みちおさんの立場に共感させ、自分たちは真剣に取り組んでいたことなど、他の人の権利よりも自分の権利を優先しがちな人間の弱さについて理解を深める。
	4 自己を見つめ、自己の生き方について考える。 ○ 導入で取り上げた例を提示し、きまりや権利とどう向き合っていけばいいのかを考える。	導入での判断からも、児童は正しいのは大学生であることは理解している。その上で「わたしがすっきりしていない気持ち」を取り上げ、課題意識を高める。
終末	5 教師の話を聞く。 ○ 人間的な弱さが出てしまうことがあることを話し、しっかりと向き合っていくことの大切さに気付く。	導入の例を示し、これまでにしてきた判断がどうだったのか、また今後どのように向き合っていくべきかを考えることを通して、判断力を高める。

役割を演じることを通して法やままりの意義について考える

◎関連する内容項目：「遵法精神、公德心」

◆ 取組のポイント

- ①役割演技を通じた実践意欲の向上 ②他律的な捉えから、自律的な捉えへの変換

◆ 取組の概要

- ねらい：法やままりの意義を理解し、秩序と規律のある社会を実現しようとする意欲を育てる。
○教材名：「許さない心」（東京書籍「新しい道徳2」中学校2年）

指導観	価値観	法やままりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについて自覚させ、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育て、日々の実践に結び付けることが重要である。
	生徒観	日常の取組を通して、生徒はままりを遵守することの大切さについて自覚する姿が見られた。一方で、他人の行動について見て見ないふりをする姿も見られる。このようなことから、役割を演じることを通して、秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を高める。
	教材観	社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育てるために、教材を読んで役割を演じ、気付いたり考えたりしたことを踏まえて、もう一度演じることで、道徳的価値についての自覚を深めさせる。

【本時の展開】

	学習活動	備考
導入	1 「ままり」についてのイメージを交流する。	・経験を振り返らせ、道徳的価値への方向付けを行う。
展開	2 教科書を読んでそれぞれの役を演じ、気付いたこと、感じたことをワークシートに書く。 3 自分がたばこを吸っている生徒を見かけたら、どのように行動するか考える。 4 自分が考えた行動を演じ、考えたこと、気付いたことをワークシートに書く。	・役割を演じることを通して、自我関与を促す。 ・演じることを通して、道徳的価値の自覚を深めることができるようにする。
終末	5 本時の学習を通して、感じたことや考えたことを振り返る。	

〔実践編〕掲載校一覧

	校種	管内	学校名
①	小学校	空知	岩見沢市立第二小学校
②	中学校	石狩	江別市立江別第二中学校 石狩市立石狩中学校 新篠津村立新篠津中学校
③	小学校	後志	真狩村立真狩小学校
④	小学校	胆振	苫小牧市立明德小学校
⑤	小学校	日高	平取町立平取小学校
⑥	小学校	渡島	知内町立涌元小学校
⑦	中学校	檜山	今金町立今金中学校
⑧	小学校	上川	旭川市立新町小学校
⑨	中学校	留萌	天塩町立天塩中学校
⑩	中学校	宗谷	稚内市立稚内南中学校 枝幸町立枝幸中学校
⑪	小学校	オホーツク	紋別市立渚滑小学校
⑫	小学校	十勝	帯広市立豊成小学校
⑬	小学校	釧路	釧路市立美原小学校
⑭	中学校	根室	標津町立標津中学校